

[2004]九州大学情報基盤センター一年報 : 2004年度

<https://doi.org/10.15017/4776948>

出版情報 : 九州大学情報基盤センター一年報. 2004, 2005. 九州大学情報基盤センター
バージョン :
権利関係 :

2004 年度年報の発行にあたって

情報基盤センター長

村上和彰

「情報基盤」とは大学のみならず社会全体の共通基盤（インフラストラクチャ）のひとつであり、コンピュータ、それらを相互接続するネットワーク、そして、その上での各種の情報システムおよび情報サービスを包含して言います。当情報基盤センターは九州大学全体の情報基盤の構築、維持、発展に責務を負うのみならず、日本全体の大学間共通情報基盤の拠点大学としての任務も背負っています。このような背景から、当情報基盤センターでは、上記のミッション実現のために必要となる様々な技術的、学術的課題を解決すると同時に、将来の情報基盤のあるべき姿を追究し、その実現に向けて運営ならびに研究開発の任務を遂行することをその理念・目的としています。

具体的には、上記の理念・目的の実現に向けて、下記分野において以下の通り到達目標を設定し、重点的に活動を推進しています。

- ・ ネットワーク：次世代インターネット技術およびグリッドコンピューティング技術の研究分野における国内ならびにアジア地域におけるリーダー的立場を確立し、当該技術の発展に寄与すると同時に、学内情報基盤への当該技術の導入、運用を推進する。特に、学内ネットワークの高セキュリティ化、学内のコンピュータを連携利用する「キャンパスグリッド」、等の実現に向けて努力する。
- ・ 高度情報活動支援技術：人間が情報基盤を用いて行う各種の情報活動を支援するための技術、たとえば、共通認証、情報検索、知識発見、等の諸技術を研究開発し、学内情報基盤にフィードバックして活用する。特に、日本全体にわたる大学間共通認証技術を国立情報学研究所等と共同で開発し実用化する。
- ・ e-Learning：全学規模での e-Learning の導入および普及、実践を目標に、e-Learning に関わる諸課題を解決していく。具体的には、コンテンツ作成技術、マルチメディア処理技術、遠隔講義支援技術、等の研究開発を行い、その成果を学内 e-Learning システムに活用する。
- ・ スーパーコンピューティング：計算科学と計算機科学の融合領域として、全国共同利用スーパーコンピュータの利用・運用技術を研究開発すると同時に、文部科学省が進める「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」プロジェクト（平成 18～24 年度）に参画し京速汎用計算機の実現に向けて協力する。

この度、2004 年度の当情報基盤センターの活動を 1 冊の冊子にまとめました。上記の達成目標に向けての私どもの活動、取り組みをご理解頂ければ幸いに存じます。また、忌憚なきご意見を賜れば幸いに存じます。今後ともよろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。